

「本年もよろしくお祈りします」と笑顔を見せるセンター職員。左は佐々木センター長



笑顔と感動

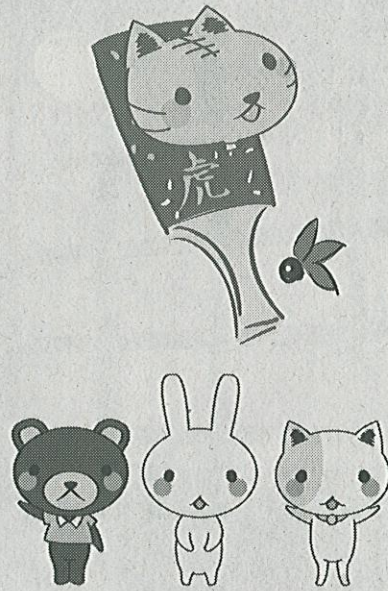
励み

青年センター

函館市青年センター(千代台町27)は、昨年で開設40周年の節目を迎え、今年は半世紀に向けた新たな一歩を踏み出す。文化・スポーツ事業が盛んに行われ、新年もスケジュールがびっしり。青少年の教養、健康増進、情操の育成の場としての活用が進む。関係者は「もっと多くの人にセンターの存在を知ってもらいたい。地域に必要とされるために、サービスの一層の充実を」と飛躍を誓っている。

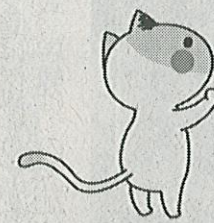
(田中陽介)

半世紀へ向け新たな一歩



センターの合言葉は「いつでも誰でも ココロは青年」。利用の対象は原則、市内の在住者または在勤者だが、「青年の健全育成には幅広い世代の交流が重要。気軽にみんなが集える環境づくりにも力を入れている」と柔軟な対応を図る。

気持ちよく利用してもらいたいと職員は積極的なあいさつと笑顔で来館者を迎える。正面玄関を入ると事務室から「おはようござ



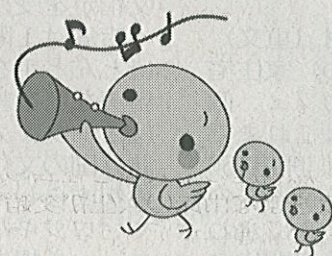
「活動の充実を」一層の飛躍誓う

「新年も来館者が喜んでくれる姿をたくさん見たい。その笑顔と感動が励みになり、一層のサービスをしたいという気持ちに結びつく」と副センター長の三浦典子さん。

こうした何気ない心掛けの徹底により、和やかな雰囲気がつくられる。「雰囲気明るく、足を運びやすい」「いろいろなイベントをやっている」。市民からの評判は上々で、昨夏から利用者は増加傾向にある。

佐々木康弘センター長は「青年の健全育成というセンターの設置目的に沿って、利用者に対し、できる限りの協力態勢で迎えたい。各種活動の充実を一緒に実現していければうれしい。気軽に相談を」と呼び掛けている。

新年は4日から開館。ホームページでは、豊富な写真などでセンターのにぎわいを紹介している。アドレスは<http://www.hako-youth.com/>



体育館や和室、調理室などを備えた施設の外観。今年も大勢が集い、にぎわう